

青木村消防団広報

KODAMA

発行/青木村消防団 〒386-1601 長野県小県郡青木村大字田沢111 TEL.0268-49-0111
発行責任者/沓掛啓二 編集/青木村消防団本部班

No. 31

発行：令和3年2月1日

新年の年頭あいさつ 団長 沓掛 啓二



新年あけましておめでと
うございます。
村民の皆様方におかれま
しては、希望に満ち溢れた
新年を迎えられた事お喜び



令和2年度青木村消防団本部役員及び各分団長

申し上げます。
令和3年青木村消防出初
式を挙行するべく、計画し
て参りましたが、新型コロナ
ウイルス感染症拡大防止
の観点から中止と致しまし
た。長い歴史と伝統ある青
木村消防出初式を挙行すべ
く考えておりましたが、現
在の状況を踏まえた上で、
消防団員とご家族を新
型コロナ感染症から守
る為、また村民
の皆様方の安心安
全の為とご理解
を頂きたく存じ
ます。また、長
年にわたり消防
団活動にご尽力
された退団者の
皆様方におかれ
ましてはご理解
をいただき感謝
申し上げます。
昨年の当村を
振り返ります
と、行方不明者
の捜索1件の出
動、その他火災
が4月、5月の

2件でした。これも、川西
消防署職員の皆様のご協力
と、日頃からの村民の皆様
の防災意識の高さ、並びに
団員の予防広報活動の賜物
と感謝申し上げます。
村外に目を向けますと、
7月に起きました熊本県を
中心に九州や中部地方など
全国で発生した集中豪雨で
は、多くの被害が起きまし
た。また、記憶に新しい佐
久市で起きました家屋火災
では、尊く幼い命が奪われ
ました。謹んでご冥福をお
祈り申し上げます。
年々消防団を取り巻く環
境が厳しくなっております。
当団においてもこの問
題に対処すべく取り組
んでいます。団員皆で知恵
を出し合いながら青木村消
防団の未来について会議を
重ねております。また、防
災の担い手である我々消防
団員の技術の向上を図り、
防災力の強化に取り組んで
いく所存でございます。
そして、北村村長をはじめ
村民の皆様方におかれま
しては、防災設備の拡充、
消防設備の更新等、当消防

団の活動に日頃より深いご
理解、ご協力、誠にありが
とうございます。

さて、昨年は新型コロナウイルス
感染症の流行が社
会全般に様々な影響を及ぼ
すなど、想定を超える事態
となっており、現在も感染
の収束が見通せない状況と
なっております。この様な
困難な状況下でも、団員各
位とご家族の皆様方におか
れましては、新型コロナウイルス感
染症拡大の不安がある中の活動に
対しご理解とご苦労に深く
感謝申し上げます。消防団
の原点であります郷土愛護
の精神のもと、共に多種多
様な火災や、災害に立
ち向かい、この新型コロナウイルス感
染症を乗り越え青木村の安心安
全を守る為、引き続き消防
団活動にご尽力賜りますよ
う宜しくお願い致します。
最後に、村民の皆様、消
防関係者、団員とご家族
のご健勝・ご多幸をお祈
りすると同時に青木村の無
火災、無災害をご祈念申し
上げ、年頭のご挨拶とかけ
させていただきます。

一年間の活動を振り返って



副団長 小林 忠彦

村民の皆様には日頃より消防団活動にご理解

とご協力を賜りまして深く感謝申し上げます。平成から令和となり、早いもので三年目を迎え時代の流れを感じております。

消防団活動も伝統を守りつつ、その時代に合わせた変化が求められております。

大きな変化ではなく、青木村の特性や地域の良さを活かし、「青木村ならではの」考え方が大切ではないかと思えます。今後とも皆様のご支援ご協力よろしくお願いたします。



本部長 相澤 良通

今年度は火災・災害が少ない年でありましたが、コロナ禍で多くの活動を中止せざるを得なくなりました。このような状況下で如何にしたら活動が行えるか、団員の安全を確保できるか議論を交わし、気が付けば深夜になっていたことが幾度となくありました。消防団活動に対して、真摯に向き合う一年となりました。

最後に青木村消防団を温かく見

守つていただいております村民の皆様にご感謝申し上げますとともに、村の安心安全のために精進してまいりますので、引き続き、ご理解とご協力のほど何卒よろしくお願申し上げます。



本利救護長 石川 暁経

この一年は消防団活動はもとより、普段の生活の形も大きく変えねばならない年でした。

しかし災害はいつ起こるかわかりません。災害に対してできることは「備える」ことです。我々消防団は活動が制限される中でもできる限り有事には直ぐに対応できるように、備えております。皆様には、火の元の確認や避難時の避難経路確認等と普段の生活の中の「備え」のご協力をお願いしたいと思えます。



ラッパ長 松田 泰彦

新型コロナウイルスの感染防止のために吹奏大会を始め様々な消防団の活動が見合わせ

になる中、青木村総合文化祭ではラッパ隊法被のお披露目としてステージ発表をすることができました。春から吹奏訓練がなかなかできず、今回は鼓隊無しでしたが隊員は基本に戻って吹奏技術を磨き発表に臨めたかと思えます。

最後になりましたが、支えてくださっている全ての方々に感謝申し上げます。また、今後も消防団とラッパ隊へのご支援ご協力をよろしくお願いたします。



警備長 増田 唯志

この一年を振り返り、コロナ禍により活動を中止せざるを得ない中、警備長主導で「林道調査徒歩訓練」を実施することが出来ました。これは、夫神岳での山林火災を想定し、本部役員で夫神岳周辺の林道を歩き、積載車輛の通行可能範囲、自然水利の確認。また、団無線の送信感度のチェック、携帯電話のキャリア別の電波状況を調査し、データ化することが出来ました。これも、消防団活動が出来ない状況下で、本部として何かできる事は無いか考え、形として残せた活動の一つです。今年も、団としての活動は出来ませんが、本部としては絆を深められた一年となりました。今後の消防団活動において、役に立てる仕事が出来た

事やうれしく思います。最後に、今後とも村の安心安全を守るため消防団員一丸となり邁進して参りますので、村民の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。



機関長 中澤 運仁

村民の皆様には日頃より消防団活動にご理解とご協力を賜り誠に有難うございます。

今年度機関長とし団を運営する側の立場として仕事をさせて頂きました。

本年度は消防団の行事や訓練が例年通りに出来ず苦勞した年でしたが、ですが、花火大会の際に団員の動きを見て訓練は出来ずとも村民の皆様を守れることが分かり安心しました。

私にとつても新たに学ぶことがありました。最後に、消防団一丸となり精進して参りますので引き続きご理解とご協力をお願い致します。



第一分団長 小林 弘典

この一年を振り返るとやはり新型コロナウイルスの話題になってしまいかと思います。

普段活動できたことが出来なくなり制限され本部の方たちとこの状況下でもできることを模索し考え悩み計画し実行しようとする感覚拡大の為止むを得ず中止ということの繰り返しでした。その中でも実施できた放水訓練等は例年より充実し意味や価値ある活動が出来ました。そして第一分団には活力ある素晴らしい新入団員が5名入団して下さいました。これからも団員一同地域に根差した分団を努めてまいります。



第二分団長 内藤 一仁

本年度第二分団長として任命され、一年間を振り返ると、例年とは違う活動で苦悩や楽しさ、新しい知見等たくさんを学び得る事ができました。

第二分団は七地区体制からなりそれぞれの地区で風土が違い、戸惑いや不安はありましたが分団幹部の協力を得てスムーズに遂行することができました。また、コロナ禍の中行事が多々中止になり、顔を合わせていない団員もいますが、部ごとの活動で尽力され感謝の意を表したいと思えます。

最後になりますが、退任まで二か月程あります。消防活動で培った事を再認識し、日々活動していきたいと思えます。